

KIRIN

<http://www.kirin.co.jp>

麒麟ビール株式会社

機動力あふれる営業スタイルをセキュアに支える RSA® SecurID®

総合酒類事業を掲げ、定番のラガーや一番搾り生に加えて、発泡酒や缶チューハイ、ウイスキーなど、マルチブランド戦略で業界の先頭をひた走る麒麟ビール株式会社。営業力強化の一環として、三菱電機情報ネットワーク(以下 MIND)が提供する「MIND モバイルネットワークサービス」を1998年に導入。データを活用・共有した機動力あふれる新たな営業体制を確立し、現在、利用者は3,000名以上にものぼる。そうした常に快適にアクセスできるモバイルネットワークのセキュリティを支えているのが、RSA SecurIDである。モバイルコンピューティングにおけるセキュリティの重要性について、情報システム部の関口克夫氏と高木信明氏にお話を伺った。



情報武装化ツールとしてモバイルを導入
営業マンの顧客訪問率向上に効果大

1870年、横浜の山手に開設されたスプリング・バレー・ブルワリーを起源とする麒麟ビールは、わが国におけるビールの代名詞的存在である。現在麒麟グループでは、ビール事業をはじめ、発泡酒や洋酒、清涼飲料水、食品関連などのコア事業に加え、医薬やアグリバイオ事業など、多角的なビジネスを展開している。2000年には、麒麟グループの中期経営計画となる「麒麟・グループ・ビジョン21(KG21)アクション・プラン」を策定。ビールや発泡酒を中核とした総合酒類事業への移行を加速させるとともに、グループ各社が互いに連携して販売活動を行い、顧客の視点に立ったマーケティングに積極的に取り組んでいる。

熾烈なシェア争いが続くビール業界にあって、麒麟ビールでは生産設備の革新や設備の集約化・大規模化を進めてきた。情報システムについても、基幹網の「麒麟フレッシュネット」を、従来のフレーム・リレーから IP-VPN へと刷新するなど、ITを

積極的に活用し業務効率化やコスト削減を果たしてきた。

そうした中で浮上してきた課題として「営業活動の生産性の向上。特に地方営業では、お得意様への訪問に費やす移動時間を削減したかった」と関口氏は語る。それに応えるべく、フレキシブルな営業活動を促進する新たな制度を導入して全社的な改革を進める一方で、同社がいち早く導入したのがモバイルネットワークだ。

対象となる営業マンは、会社から支給されたノートPCとPHSを使って、外出先から社内の情報システムに自由にアクセス、営業日誌を提出したり、新商品や最新マーケティング情報を入手して、各自の営業活動に役立てたりしている。この「MIND モバイルネットワークサービス」は、2002年現在、内勤者やグループ企業の社員も含めて3,000名以上の社員が活用している。

そうした麒麟ビールのモバイルネットワークのセキュリティを支えているのが、RSAセキュリティの RSA SecurIDである。

麒麟ビール株式会社

1907年の創業以来、ビール事業を核として、楽しく豊かな酒文化を創造してきた。加えて、医薬品や健康食品などの製造・販売も手がける。本社のほか全国に10地区本部41支社、11ビール工場と1医薬工場、7研究所とホップ管理センターを展開している(2002年4月現在)



情報システム部
部長補佐
関口 克夫氏



情報システム部
主任
高木 信明氏

RSA SecurID 導入のポイント

- ・手軽に持ち歩きでき、どこからでもアクセスできる利便性
- ・暗証番号 + トークンという、セキュリティを二重にかけられる確実性
- ・トークンという“目に見える”形による信頼性

RSA SecurIDがあるからこそ社内にいるのと同様のアクセスを許可
「モバイルネットワークとはいえ、必要とあれば社内情報に自由にアクセスできるシステムを構築しましたので、情報漏洩について不安を感じる利用者がいました。活用促進のために、これに応えることは必須でした」と、高木氏はセキュリティの重要性について語る。

実際に訪問先では他社の営業担当者と顔を合わせる機会も多く、ノートPCの紛失などにより、第三者にアクセスされたり、顧客に関する重要情報が漏れいってしまう可能性も否定できない。一方で、多忙な営業マンに対して、煩雑な認証手順などを要求せず、スムーズにモバイルを活用してもらいたい。そうした要望に応えたのが、RSA SecurIDだったのである。

RSA SecurIDの特徴は、何より、高い利便性と信頼性にある。利用者に配布されるキーフォブ型のSecurIDに表示される6桁の数字を、暗証番号と合わせてログイン画面に入力、本人確認を行う。指紋認証のような煩雑な専用機器は不要で、毎分変わるワンタイムパスワードは、固定パスワードのように番号を盗まれたり推察される心配もない。

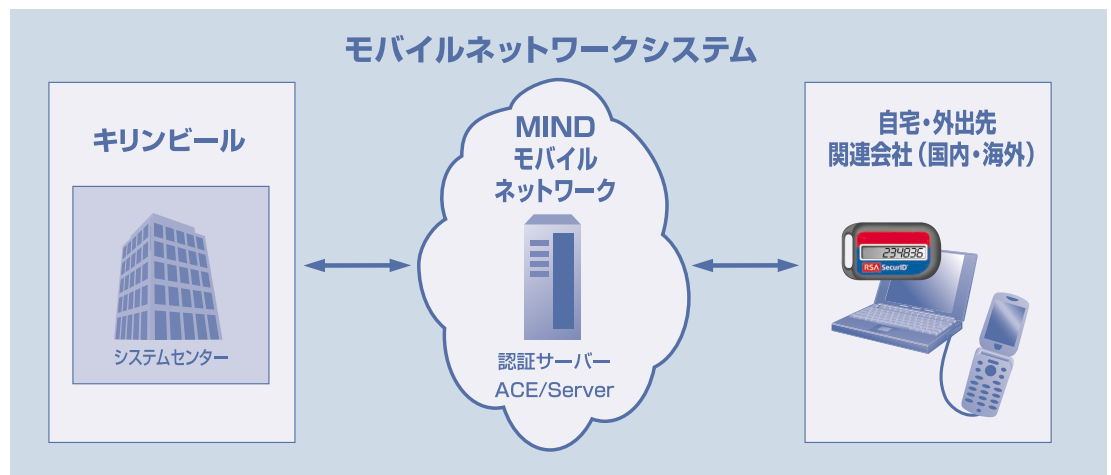
「キーフォブ型のSecurIDは、手軽に持ち歩けると営業マンたちにも好評であり、携帯することで社員一人一人のセキュリティ意識の向上にも役立っている。そうした確固たるセキュリティ基盤のもとで、私たちが安心してより高度な営業支援を実施していきたい」と高木氏は抱負を述べる。

常時接続環境も視野に入れたより積極的な活用へ

現在、モバイルネットワークを経由して、日常の営業活動から得られた営業日誌をもとに、酒類営業本部では業態別や目的別など訪問件数の把握につとめている。得られた情報は社内共有だけでなく、地区本部・本社間での支援にも使われているという。「RSA SecurIDによりモバイルネットワークの信頼性が確保されているメリットは大きい」と関口氏が語るとおり、営業マンの訪問回数の向上やモバイルPCを使用した顧客へのプレゼンテーションによる訴求効果の向上など、さまざまな効果が上がっているという。一方で、「モバイル通信のコスト削減が今後の課題である」とも関口氏は語る。

「より効率的な営業支援を実施すべく、モバイルの常時接続環境の実現も視野に入れるなど、先進技術を常に取り入れたシステム構築を実施したいと考えています。iモード携帯電話にRSA SecurIDを搭載した新サービスを含めて、より利便性の高い機能であるなど、RSA SecurIDの今後の展開に期待しています」と、高木氏からは今後の期待が寄せられた。

時代の移り変わりとともに、消費者の嗜好の変化を的確に把握して、常に魅力的な商品を私たちに提供し続けているキリンビール。その躍進を支えているのは、アグレッシブに活動を続ける営業マン一人一人の活躍であり、彼らを常にバックアップする、セキュアな環境に守られた先進のネットワークにほかならない。キリンビールの今後の展開に期待したい。



RSAセキュリティ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルディング
エンタープライズ営業本部 TEL.03-5222-5230
http://www.rsasecurity.co.jp info-j@rsasecurity.com

お問い合わせ先